

キュウリにおけるハイフミンハイブリッドGの施用試験結果(平成23年度)

1. 試験目的; ハイフミンハイブリッドGの施用による増収効果とキュウリ根張りの健全性の確認
 2. 供試作物; キュウリ 品種「ズバリ163」
 3. 試験内容
 - (1)設置場所; 和歌山県紀の川市
 - (2)試験規模; 施用区1a、無施用区1a
 - (3)圃場条件; パイプハウス
 - (4)施用量(10aあたり)
 - ①施用区 ハイフミンハイブリッドGを10aあたり150kg畝施用
 - ②無施用区 ハイフミンハイブリッドG無施用
- ※ハイフミンハイブリッドGの施用の有無以外は完熟堆肥、土壌改良材および基肥、追肥はすべて同条件で試験を行った。
- (5)耕種概要
定植日; 平成22年12月末
収穫期; 平成23年3月11日～6月28日
4. 展示試験の調査結果および考察



4月12日 地上部の様子



6月28日 地上部の様子



6月28日 施用区の根張り状態



6月28日 無施用区の根張り状態

【根の観察結果】

ハイブリッドG施用区の根は健全で良く張っていた。無施用区の根は相対的に少ないようであった。作土は、施用区が無施用区よりやわらかいものと思われた。

【生産者のコメント】

施用(ハイブリッドG)区は、無施用区に比べ、初期生育が旺盛で、収穫量が多いと思われた。施用区のキュウリは実の表面につやがあり、いぼがしっかりしていた。

【結果および考察】

3月11日より収穫を開始した。4月12日までの累計収量は、施用区 1, 245本、無施用区 1, 139本で、初期の収量で9.3%の増収が認められた。

また、6月12日までの収量累計は、無施用区に比べ施用区で5.4%増収となっていた。

これらの結果から、キュウリへハイフミンハイブリッドGを施用すると、根張りが良くなるとともに初期生育が旺盛になって、増収することが期待された。